

●炭焼き体験 原木の処理 2月21日(土) 太田、金田、小川、森島、大村 5名参加

長年放置されてきたコナラの原木の伐採は周囲に被害が出ないように注意しながら切り倒しました。木炭に適当なものは運び出しましたが、小枝の始末をチップ化しようと粉碎機の借用の都合のついた21日の農園作業日に5名で作業をしました。この粉碎機の威力で山のように広がっていた小枝は60cm×50cmの1t袋、10袋に収まりました。出来たチップは里山農園でカブトムシやクワガタなどの用途に可能な



のか試してみたいと思います。まだ巨木が運び出されていないので運び出せる重さに割って軽くする仕事が残っています。斧で割るほかに、チェーンソーで割り目を入れてくさびを打ち込むやり方や、動力の薪割機の使用も考えられます。元気な子供たちと薪割体験を計画するのも一計かと思えます。また腰かけなどに利用するもの一つの案ではないでしょうか。お知恵を拝借いただければと有難い所です。もう少し木炭には原木が足りないかと推測します。

伐採した樹木の年輪を森島さんに数えていただきましたところ直径

が33~46

cmとの6本でした。この近くにはほとんどコナラらしい表面の模様で、クヌギや樫も生育しているのではないと予想していましたがコナラでした。年輪はいずれも43~44本で化石燃料が普及するときと重なってきました。一般家庭でプロパンガスが1960年代に普及がされ始めました。この頃安くて取り扱いやすい石油や天然ガスなどの化石燃料が石炭や木炭にとってかわりました。この変化を「燃料革命」と呼ばれています。



楽斤 屋号 2026年(令和8年)2月16日 月曜日

木津川河川敷 美しく 山城の流域各地で一斉清掃

木津川流域の河川敷 行委員会が主催した。を上流部から一斉に清 掃する「グリーン大作 戦」が15日、山城地域 各地で行われた。 木津川管内河川レン ジャーなどをつくる実 行委員会が主催した。 11~13月にかけて宇治 華町や笠置大橋(笠 置町)など8市町村の 河川や桂川など流川水系 で清掃活動を行う「一 斉美化アクション」の 一環で、木津川流域 計18カ所でごみ拾いを 行った。 京田辺市田辺の田辺 木津川運動公園では、 約30分間の活動で、 空き缶や草の袋など、 約20袋が集まった。 熱帯魚水槽の部品や

市職や市民団体、市 内の少年サッカーク ラブの子たちが参加し た。参加者はほほさま とビニール袋を主に、 公園内を歩き回ってご みを採集した。 「思ったよりごみが多 くて驚いた。きれいな なるを気持ちよくすき ります」と笑顔を見せ た。(森田明理)

ピニール袋を手にごみを拾う子どもたち (京田辺市田辺木津川運動公園)

活動後に笑顔を見せる参加者たち

●木津川クリーン作戦(2月15日)に510名が参加でした。

その様子が京都新聞で翌日報道されました。里山の会は山城大橋東を担当しました。

●3月3日(火)から京田辺市立中央図書館で活動発表展示会を開きます。(～8日まで)

図書館へお越しの折に覗いてください。里山の会では活動発表「里山展」を例年この時期にしてきました。今年も3月3日(火)10時から8日(日)15時まで開催いたします。2026年は結成されて30周年を迎えていますので出来るだけ重点的な成果を展示して振り返っていただける取組にしてみたいと思っています。自然を大切にする仲間の輪を大きくするとしてきたスローガンで成果を点字出来ればと思います。京田辺市は近隣に無い素晴らしい自然の宝庫だと私たちの活動で明らかになって来ました。その一端を覗いてください。



里山の会・いきもの三銃士

オオムラサキ ヤマトサンショウウオ イタセンパラ

各種昆虫等の生き物	カブトムシ アカガエル イノシシ	クワガタムシ ホタル タヌキ	タマムシ アライグマ キツネ	ムラサキシジミ ノウサギ キジ	アサギマダラ マムシ
絶滅危惧植物	キンラン イヌハギ トキワススキ アメリカフウロ	ギンラン ツルフジバカマ タヌキマメ	トキワススキ コクラン	レンリソウ マキエハギ ナツズイセン	フナバラソウ タコノアシ タツナミソウ
年表	30年のあゆみ	会誌 60号	週刊ニュース	1号 100号ごと	
刊行物	冊子	目録ノート	草花たち	木津川の植物写真	標本写真
竹蛇籠	15年	24年	25年	26年	
中聖牛五群	17年玉水浜	18年玉水浜	19年玉水浜	20年玉水浜	21年精華浜
施設	草内倉庫	事務所	教育棟	観察棟	炭焼き窯小屋
生息池	大池 1,2,3、新池				
調査・観察	夜の生き物	冬の生き物調査			
野菜栽培	大根	ハウレンソウ	ジャガイモ	ピーマン	トマト
イベント	なすび	カボチャ	水菜		
工 作	七草摘み	親子花見乗船体験	ホタルの集いと音楽会	子ども魚釣り	
	子どもカヌー体験				
	松かさツリー	竹エンピツ			



●第30回 里山環境講演会

3月7日(土)13:00~15:30

京田辺市中央公民館で講演会を開催いたします。

伝統的河川土木である竹蛇籠の利用を働きかけて中聖牛や将棋頭型水制工を制作設置など、この取組を提唱し現場で指導されてきた竹門先生にお話ししていただきます。今回の講演会では経過と成果をお話しいただき、木津川が全国的に果たす役割などを語り合えればと考えています。ぜひご参加をお願いいたします。

第30回 里山環境講演会

一級河川は国交省の管理下であって一木一草を持ち出しても構わないというのが方針とされてきました。

里山の会の報告「調査の結果317種の植物が生息していることを確認し、72カ所にレッドデータブックで指定された植物の存在が明らかになり里山環境の調査が完了しました。一方川岸の埋め込み河床低下などで、魚類や鳥類が減少し水質の悪化と土壌に露出された土も子孫たちに魚とりの面白さが奪られる川でなくなりました。そのために河川敷きの洪水で流れ流れた岩石を利用した伝統的河川土木である竹蛇籠の利用を国交省木津川出張所に働きかけて中聖牛や将棋頭型水制工を2015年から15ヵ所を中心に製作設置を行って来ました。この活動は京都大学防災研究所の指導で取り組み、住民(里山の会等)が力を合わせ、管・学・民の共同で川管理(住民による川作り)として実行されてきました。この取り組みを提唱し現場で指導されてきた竹門康弘教授でした。取り組みで約18年が経過し全国的に認識が広がって西の西十川や岡山県で実験が始まっています。今回の講演会では経過と成果をお話しいただき、木津川が全国的に果たす役割などを語り合えればと考えています。

環境天然記念館に指定されて日本で3か所(福井県・岐阜県・大津市)にしか生息していないイタセンパラの産地を山越地方の木津川で実現できないかとささやかに18年取り組んでいます。出来れば協力をいただければ幸いです。

3月7日

京田辺市中央公民館

講師 竹門康弘

現 大阪府公立大学客員研究員 理学博士
川の恵みを生かす会 代表

木津川を身近な川に

参加費無料 参加申し込み 住所 氏名 電話番号 ffd@w7@yahoo.co.jp まで 782 席

主催 特定非営利活動法人やましろ里山の会 京田辺市田辺部 15
後援 京都府 国交省 環境省大阪事務所 京田辺市 京都府教育委員会(申請中)
京田辺市環境センター 京都市長